

(西暦)

2020年 9月 18日

【鼠経ヘルニア】の【腹腔鏡下手術】のため当院に入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた臨床研究に対するご協力 のお願い

| | |
|-------|--|
| 研究責任者 | 所属 <u>麻酔科</u> 職名 <u>フェロー</u> 氏名 <u>佐藤 史弥</u> 連絡先電話番号 <u>内線 38197</u> |
| 実務責任者 | 所属 <u>麻酔科</u> 職名 <u>部長</u> 氏名 <u>香川 哲郎</u> 連絡先電話番号 <u>内線 30008</u> |

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、麻酔科 香川哲郎までご連絡をお願いします。

1 対象となる方

西暦 2018年 1月 1日より 2020年 9月 15日までの間に、当院で鼠経ヘルニアに対して腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術 (LPEC) をするために全身麻酔を受けた方

2 研究課題名

鼠経ヘルニアに対する腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術 (LPEC) における腰方形筋ブロックの有効性：後方視的研究

3 研究実施機関

兵庫県立こども病院 麻酔科

4 本研究の意義、目的、方法

鼠経ヘルニアに対する治療として手術が選択された場合、全身麻酔が行われます。この際に臍部と側腹部に傷ができます。臍部の傷の鎮痛法として、腹直筋鞘ブロックという方法が有効であるとされています。側腹部の傷に対する鎮痛法としては、側腹部の支配神経周囲に局所麻酔薬を注入する腰方形筋ブロックという方法と、傷の周囲に直接局所麻酔薬を浸潤する術野局所麻酔という方法があります。まず全例に手術開始前に臍部の傷に対して腹直筋鞘ブロックを行い、それに引き続いて腰方形筋ブロック（超音波を用いて腰方形筋の外側に局所麻酔薬を注入）を行うか、もしくは術後

に術野で局所麻酔手術中に局所麻酔薬を浸潤させます。使用している薬剤は同じ局所麻酔薬ですが、量・注入する場所に差異があるため、術後の痛みに影響を与える可能性があります。現在はどちらがより有効かは分かっておらず、どちらも安全性が確立した方法です。これらを比較検討することによってより有効な鎮痛方法が明らかになることが期待できます。

5 協力をお願いする内容

患者様に直接協力していただく内容はあります。
麻酔記録の閲覧、データの抽出を行います。

6 本研究の実施期間

倫理委員会承認後 ～ 2020年 12月 1日（予定）

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、患者番号、年齢、身長、体重、性別です。その他の個人情報（氏名、住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

兵庫県立こども病院麻酔科 香川哲郎

電話 078-945-7300 FAX 078-302-1023

email : kagawa_kch@hp.pref.hyogo.jp

電話の場合は平日9時～17時としてください。

以上